

宝永

NEWS

宝永

URL: <http://www.shizuokam.com>

静岡県山岳連盟

〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL (FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
平成26年11月17日発行
第11号

東日本大震災復興支援第69回国民体育大会「長崎がんばらば国体」は、45年ぶりの国体で「君の夢はばたけ今」ながさきから「スローガンに、「文化・スポーツ融合国体」「県民総参加国体」「コンパクト国体」の視点から、県民の英知と情熱を結集し、「長崎らしい魅力あふれる大会」の実現を目指して実施された。

本大会の山岳競技は、大村市で開催され、本県からは、成年男子チームと東海大会で勝ち抜いた

バルは、一般向けAコース山伏岳・笹山（募集40名）、高校生向けBコース（40名）、一般及び高校生向けCコース（70名）で実施の予定。広報誌、新聞、テレビ等でPRしているが応募は低調。各々の協力を！

IV長崎国体山岳競技について
10月17日、大村市にて開催される。
本県より少年男子2名、成年男子2名が出場する。滝田会長を総監督の下、森下先生と諸戸氏が同行することが承認された。
V自然保護委員総会（広島大会）について
11月22日、各県よりの報告、デイスカッション

約11メートルの高さから次々に落下した2人に、腕のパワーはもう残っていないかった。山岳成年男子リードの田辺（立大）と大橋（大橋商店）は「こんな力を出し切ったのは初めて」と充実感たふりに言った。自分たちも驚く、同種目県勢初の3位だった。

前日の予選は7位通過。田辺は浜松日体高の壁に苦戦する中、2人そろって安定感のある試技を見せた。6年ぶりの出場となった大橋はうれし。やはり頑張る価値のある大会だと思った。と国体の大きさを再認識した。高校時代から3年連続出場。田辺は「まだ実感がわかない」と笑った。（南部明宏）

あまり出来ない設定。大橋は11メートルのハング上のホールドをランジで取りにいき、フォール。16人中5人がここで落ちる（個人順位7位）。田辺は、このポイントを設定して取りに行き、ルーフ上をトラバースして数手進み、フォール。その後出た有力選手の中で、このポイントを超えたのは4人のみで総合3位となった。やはり予選の突破が核心であった。47県が参加する成年男子の中で8位に入るの簡単ではない。その中で、ルーフに対応して協力し、チーム戦を戦った。力を出し切ったクライミングを4本そろえたのは立派で、競技・練習に真摯に取り組む姿勢があったからだとも思う。選手の健闘に感謝したい。（諸戸）

安く（¥22／部）印刷できるルートを見つけたので試験的にカラーで印刷。次回以降も続けたい。（長野）

出席者名（17名）
滝田、塩沢、木ノ内、出利葉、前川、豊田、工藤、松永、増田、大石、坂田、諸戸、内海、田中、清水、小田、長野

編集後記
御嶽山の噴火は、戦後最悪の火山災害となり、57名もの登山者が犠牲になった。死者の中には噴火を撮影して逃げ遅れた人がいるという。この逃げ遅れの心理は「正常性バイアス」と呼ばれ、誰にでもあるという。多少の異常事態が起こっても、それを正常範囲ととらえ「まだ大丈夫」と何の根拠もない思いを抱いてしまふ。異常事態に素早く自分の身を守る行動を取るためにこの心理は覚えておきたい。

御嶽山のような突然の噴火を想定して登山する人は少ないが、活火山の登山にはヘルメットの着用が必要だと感じた人は多いだろう。（TK）

いた。ただし、彼らは受験生でもあり、今回の国体の前の練習はあまりで

静岡県山岳連盟
〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL (FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
平成26年11月17日発行
第11号

成年男子第3位入賞

第69回国体（長崎国体）リード競技

総監督総評

国体は、広く国民の間にスポーツを普及し、国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするものである。

東日本大震災復興支援第69回国民体育大会「長崎がんばらば国体」は、45年ぶりの国体で「君の夢はばたけ今」ながさきから「スローガンに、「文化・スポーツ融合国体」「県民総参加国体」「コンパクト国体」の視点から、県民の英知と情熱を結集し、「長崎らしい魅力あふれる大会」の実現を目指して実施された。

本大会の山岳競技は、大村市で開催され、本県からは、成年男子チームと東海大会で勝ち抜いた

予選ルートは、2カ所完全にレスト出来る地点があり、地球儀を割ったような場所もあるトリックリーな設定。両者とも第1レストポイントからマントルをこなし、第2レストポイントへ。ここで、リードの経験の深い田邊が先行し、そのムーブを大橋が見ながら、スタートを切った。田邊は、ルーフの超え、張りぼてのホールドをぎりぎり止め、その後4手進めてフォール。ボルダリング力のある大橋は、ルーフ上のムーブを安定して通過したが、持久力がつき田邊と同じホールドでフォール。競技順30番目の時点で7位で、後に有力チームが数チーム控えていたので、決勝進出は無いと思われた。国体は2名の個人順位の合計であり、2名同じ到達点をもっている本県チームの順位はその後大きく変動し、一時枠外にこぼれたが、最終チームが終えた時点で再度7位に滑り込んだ。7位から10位まで非常に僅差の中での決勝進出であった。

リード決勝19日（日）
決勝ルートは、予選と打って変わり、レストと

ある。豊田氏が参加予定。VI個人会員制度検討委員会について
第2回の委員会を9月16日に開催する。
VII平成27年県岳連カレンドーについて
前年より50部少なく300部作製し、見本が回覧された。各加盟団体は10月31日迄に、10部以上の購入をお願いしたい。VIIIその他
①竜爪山山岳競技大会
12月14日予定。参加希望が増加の為、1校15名に制限したい。
②宝永第10号

ある。豊田氏が参加予定。VI個人会員制度検討委員会について
第2回の委員会を9月16日に開催する。
VII平成27年県岳連カレンドーについて
前年より50部少なく300部作製し、見本が回覧された。各加盟団体は10月31日迄に、10部以上の購入をお願いしたい。VIIIその他
①竜爪山山岳競技大会
12月14日予定。参加希望が増加の為、1校15名に制限したい。
②宝永第10号

9月常任理事会
9月8日（月）静岡労働会館で常任理事会が開催された。会長他16名の出席者であった。
滝田会長から夏山登山教室を開催された関係者への謝意の表明。
個人会員について委員会を設立して意見を集約中。スポーツフェスティバルへの参加、来年度の岳連カレンドー購入に協力をとの挨拶があった。
議題
I各委員会の報告
①指導委員会
一般向けの第2回夏山登山教室は定員15名で募集し、13名の参加。
第一回は山伏で、第二回は爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳の縦走を行った。広報は今後も重要である。
少年少女登山教室は応募無しの為中止し、秋版として「富士山の不思議自然体験」を企画した。
平成26年度指導者講習会は、参加者9名で9月28日、10月25・26日、1月31・2月1日の3回に分けて行われる。
②国体委員会

8月19・20日富山県で東海ブロック大会が行われ少年男子が2位となり長崎国体に出場する。
③東海ブロック『正副会長理事長会議』
出席した木ノ内理事長より、岐阜県が富山・群馬県に続き登山届を義務化する条例を決めた第3例となった。大盛況だった三重岳連の山登りベイスニック塾などの報告があった。（詳細は宝永第10号）
II各委員会の事業計画
①海外委員会
世界トップクライマーの、馬目弘仁（まのめ、ひろよし）氏を招いて11月30日、午前と午後2回に分けて、石井スポーツ松坂屋静岡店で講演会を開催する。
③指導委員会（塩澤）
10月5日開催予定の『平成26年度少年少女富士山の不思議自然体験』の実施要領についての説明あり。一委員より、日程が県スポと重なっているので影響ないようにとの意見。
III平成26年度スポーツフェスティバル
10月4日〜5日に行われるスポーツフェスティバルは、一般向けAコース山伏岳・笹山（募集40名）、高校生向けBコース（40名）、一般及び高校生向けCコース（70名）で実施の予定。広報誌、新聞、テレビ等でPRしているが応募は低調。各々の協力を！

バルは、一般向けAコース山伏岳・笹山（募集40名）、高校生向けBコース（40名）、一般及び高校生向けCコース（70名）で実施の予定。広報誌、新聞、テレビ等でPRしているが応募は低調。各々の協力を！

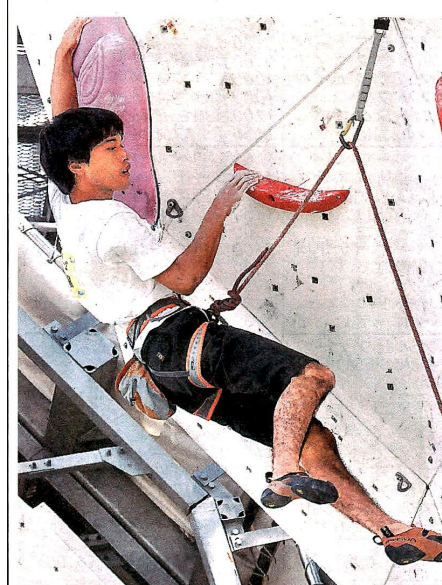
IV長崎国体山岳競技について
10月17日、大村市にて開催される。
本県より少年男子2名、成年男子2名が出場する。滝田会長を総監督の下、森下先生と諸戸氏が同行することが承認された。
V自然保護委員総会（広島大会）について
11月22日、各県よりの報告、デイスカッション

（15）スポーツ

平成26年(2014年)10月20日(月曜日)

責

成年男子リード 県勢初の3位



山岳成年男子リード決勝 最良のルートを見極めながら、高度を上げる田辺（立大）＝長崎県立大村高山岳競技会場

「力を出し切った」

その分、思い切ってやれた。アクロバティックにぐいぐい登る田辺に引張られるように、大橋も奮闘。他県の前日の予選は7位通過。田辺は浜松日体高の壁に苦戦する中、2人そろって安定感のある試技を見せた。6年ぶりの出場となった大橋はうれし。やはり頑張る価値のある大会だと思った。と国体の大きさを再認識した。高校時代から3年連続出場。田辺は「まだ実感がわかない」と笑った。（南部明宏）

約11メートルの高さから次々に落下した2人に、腕のパワーはもう残っていないかった。山岳成年男子リードの田辺（立大）と大橋（大橋商店）は「こんな力を出し切ったのは初めて」と充実感たふりに言った。自分たちも驚く、同種目県勢初の3位だった。

前日の予選は7位通過。田辺は浜松日体高の壁に苦戦する中、2人そろって安定感のある試技を見せた。6年ぶりの出場となった大橋はうれし。やはり頑張る価値のある大会だと思った。と国体の大きさを再認識した。高校時代から3年連続出場。田辺は「まだ実感がわかない」と笑った。（南部明宏）

ある。豊田氏が参加予定。VI個人会員制度検討委員会について
第2回の委員会を9月16日に開催する。
VII平成27年県岳連カレンドーについて
前年より50部少なく300部作製し、見本が回覧された。各加盟団体は10月31日迄に、10部以上の購入をお願いしたい。VIIIその他
①竜爪山山岳競技大会
12月14日予定。参加希望が増加の為、1校15名に制限したい。
②宝永第10号



聖平ヤシット施設

【はじめに】
私が、南アルプスに深く関わり、知るようになったきっかけは、平成15年に「南アルプス高山植物保護活動」に出会えたからです。今年、ユネスコエコパークに登録されるきっかけとなった高山植物の宝庫であることや、氷河地形の南限であるなどの南アルプスの自然の特徴を知れば知るほど、好きになり、今に至っています。

無積雪期限定ですが、毎月1回以上南アルプス

【現状】
南アルプスは、かつてお花畑が点在し、その種類や美しさが際立っていましたが、近年、ニホンジカが高山帯にも進出し、雪解けの頃から冬までの間、稜線付近を餌場として利用しています。そのため、美しい花を咲かせる高山植物が減少し、お花畑が、単なる草原に変わったり、裸地になったりしています。

ニホンジカの影響は、1990年代半ば頃、南アルプス南部で確認され始めました。南アルプス全域での影響がはつきり見え始めたのは、2000年半ば頃です。静かにゆっくり影響が始め、一気に加速した感じがし

【ニホンジカ対策】
亜高山帯から高山帯におけるニホンジカ対策は、まずは柵を設置し、ニホンジカの採食から高山植物を保護することです。柵の維持管理費はかかりますが、ニホンジカの採食行動から保護するには一番の方法です。

しかし、生態系の保全を考えた場合は、根本的な議論が必要で、ニホンジカの頭数をどのように考えるかがカギとなります。個体数調整が必要であるとの意見が多数を占めています。本格的な個体数調整には取組めていません。

【ボランティアによる高山植物保護活動のひろがり】
2005年からボランティアを募り、防鹿柵の設置や維持管理、土砂流出を防止するためのヤシ織維製のマットの敷設などを行っています。最近

では、活動場所も回数も増え、年6回程度、塩見岳、三伏峠、荒川岳、聖平、茶臼岳で活動をしています。

近年の特徴は、①県外からの参加者が増えていること、②高校生など若年層の参加が増えていること、③参加申し込み数が多く、キャンセル待ちがでていることです。

南アルプスの名峰に登りながら、高山植物保護活動を学び、実感できるこの活動に参加してみませんか？

南アルプス高山植物の保護活動

静岡県山岳連盟 鶴飼一博相談役



茶臼小屋前季節型防鹿柵

高校クライミング大会

男女7名が全国大会へ

第15回高校クライミング競技大会が、12月に埼玉県加須市で行われる第5回全国高校学校選抜クライミング選手権大会の予選をかねて、11月8日(土)浜松スクエアクライミングセンターにて4校40人(男子24、女子16)の生徒が参加して行われました。女子の予選は、ムーブでやや遠いホールドを取りに行くルートで3名が完登し、4名が決勝進出。(グレードは10d) 男子予選は、やや、ルート設定が易しかったからか、14人が完登し決勝に進出しました。(11bc) 女子決勝は、メイン壁を正面から登るルートで、富士宮西の村野さんが唯一完登し優勝を決めました。(11d) 男子は、足裁きの難しいルーフ状のカンテで多くの選手がフォールし、最後の最終ホールドに迫ったのは3名、その中で、浜松日体の伊藤君が最後の遠い終了点をつかんで優勝

しました。(12a) 大会の結果、男子は3名(日山協推薦1名)、女子は4名(日山協推薦2名を含む)が全国大会に駒を進めました。会場を提供していただきルートセットを行っていたいただいた浜松スクエアさん及び運営に協力してくださった多くの方々に感謝申し上げます。全国大会出場者は以下の通り。

男子1位 伊藤優輝
2位 山根翔太 鈴木正信「日山協推薦」(以上浜松日体)

女子1位 村野加奈(富士宮西) 2位 高柳結(浜松日体) 中村祐香梨「日山協推薦」北脇順子「日山協推薦」(以上浜松日体) (諸戸)



第8回スポーツフェスティバル登山大会

安倍奥山伏岳・大日峠 台風でコース短縮

今年の標記大会は、中部ブロックの担当で、10月4日、5日、安倍奥の山伏岳と大日峠で実施した。山伏は1泊コースで、県民の森で幕営、あるいはロッジ泊し、翌日、山頂を越えて梅ヶ島へ下る行程であった。大日峠は日帰りの設定で、口坂本から峠を越えて井川湖へ下り、渡船で対岸へ渡るという予定であった。県民の森から山伏にかけてのコースは、なかなか稜線のあちこちから南アルプスが望め、紅葉の美しいところである。

中高年安全登山指導者講習会報告

1 期 日 26年9月26日(金)～28日(日)
2 開催地 青森県 岩木山 岩木青少年スポーツセンター
3 主催者 国立登山研修所、(公社)日本山岳協会
4 参加者 北海道～愛知県までの登山団体指導者 48名
5 静岡県からの参加者 静岡県ワンダーフォーゲル会 三島文夫、小川晴久

大日峠は静岡と井川を結ぶ歴史ある峠道であり、特に井川湖の渡船は、山で船に乗るという面白い体験のできる場所であった。

しかし、台風19号の影響で5日未明から雨が降り出したため、コースをカットせざるを得なくな

り、山伏コースは笹山の間復、大日峠は峠の上までということになってしまった。参加予定者はAコース山伏が16名、Cコース大日が49名だったが、天候が警戒され、特にCコースは約半数が欠席であった。主催者としても残念であったが、参加者、予定者の方々にも大変申

し訳ない結果となってしまった。

今回の企画に当たって、担当者としては、一般からの参加者をぜひ増やしてみたいという思いがあった。そのため、広報には力を入れ、自治体広報紙や、新聞、テレビなど、思いつく限りの方法を試してみた。しかし、結果

として一般からの参加者は、Aコースは16名のうち2名、Cコースは49名のうち6名にとどまったのが実情である。広報の成果が少々あったとは言えようが、応募者の総数も予定には大きく届かず、反省事項の多い大会となった。(小田)

講習内容は、①講義「中高年登山の現状と課題」北村憲彦 日本山岳協会理事
・遭難者の数が激増している。H16年 1,104人、H25年 2,713人 64%が60歳以上
・登山は、観光ではなくて、スポーツである。それなりに訓練が必要
②講義「登山時のファーストエイドの知識」大城和恵 医師 日本登山医学会山岳ファーストエイド委員長
・ファーストエイド
「緊急度が高い場合にやむを得ない処置として、傷病者の生命を脅かす状態を確認し、回避する処置」
…まず、周囲の安全等の状況を確認し、可能であれば、頭・首・背中をまっすぐにして、仰向けに寝かせる。話しかけてみて、話ができるか(気道確認)、呼吸をしているか(呼吸確認)そして、脈をとってみる(心臓の拍動を確認)必要があれば、心臓マッサージ、人口呼吸を行う。次に、頭から足の指先までを手で触りながら、出血や骨折がないかを確認する。出血をしていれば、包帯をして止血をする。出血が多ければ、止血には時間がかかる。忍耐が必要。骨折箇所は、固定する等の処置をする。寒さ・雨風雪・日射を避けるために、防寒具、シート等を利用して、傷病者を保護する。以上の処置を施し、救助要請を行う。

・低体温症：野外での対応
軽度(震え有、意識正常、脈・呼吸良好)…カロリー補給、水分補給、運動可、隔離、保温、加温が必要
中度、高度、重度(震え低下・無、意識低下・無、脈・呼吸低下・無)隔離、保温、加温が必要。

・救助要請
例 携帯電話…まず「山岳遭難」と告げ、それから「場所」、「電話者の氏名」を伝える。

③講義「岩木山周辺の動植物について」阿部 東 岩木山を考える会会長
・独立孤高山であることによる特異性を氷河期にさかのぼって解説

<2日目>
5つの班に分かれて、百沢登山口から登山開始。途中大城先生の指導の下、ファーストエイドの実習。山頂は天気も良く日本海から津軽半島、弘前平野、弘前の街並みまで素晴らしい眺め。

<3日目>
研究協議 2日目に行ったファーストエイドの実習の際に気が付いた点などを各班から発表。それに対するコメント、解説
*講習会は、テーマをしぼって、集中的にやりたいとのことで、昨年度は、「読図」を中心にを実施した。今年度は、「ファーストエイド」を中心に講習会を実施した。来年度も、「ファーストエイド」を中心に、東京で開催の予定(9月11日～13日)